

2019 年度立命館附属校 教師塾IX

—キャリア教育—

附属校教育研究・研修センター

1月21日（火）朱雀キャンパスにおいて、附属校教育研究・研修センター主催の教師塾IXを実施した。

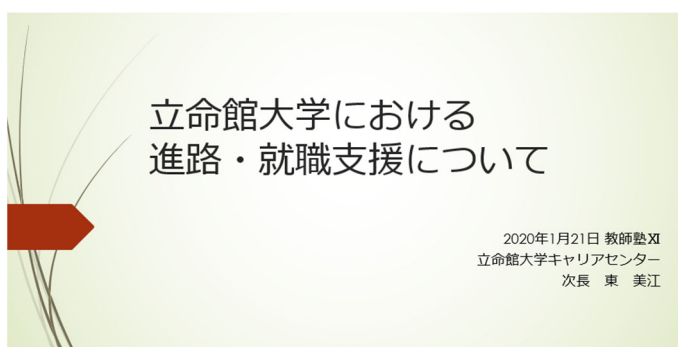
講師には立命館大学キャリアセンター 次長 東 美江様を迎え、「立命館大学における進路・就職支援について」というテーマでご講演をいただいた。その後、就職が決定した附属校出身学生3人から高校生活・大学生活と就職への取り組みについて発表いただいた。そして、東様、卒業生を囲み、ディスカッションを実施した。入試業務で出席者が少なかったが、立命館大学の充実した進路・就職支援を知るとともに、附属校の恵まれた教育環境を生かす取組や子どもたちの資質を見出し、伸ばしていく大切さを再認識した研修であった。

参加者は8名（立命館中高1名、立命館小2名、立命館宇治中高2名、立命館慶祥中高3名）であった。

《研修記録》

1 東次長講話

立命館大学では正課として学部の人材育成目的に沿った学びを展開し、キャリア教育センターが全学型キャリア教育を、そして正課外のキャリアガイダンス・カウンセリング等をキャリアセンターが実施している。学部、キャリア教育センター、キャリアセンターは進路・就職委員会で支援方針の合意形成を図り、連携して取り組みを進めている。



キャリア教育センターが提供し、教養教育として展開する講義科目の他にインターンシップ科目、PBL科目があり、学部で独自のインターンシップ科目もある。2020年度から教養教育のインターンシップ科目は廃止されるが、1回生配当科目で企業から提示される実社会のリアルな課題に対する解決策をチームで議論し、提案するPBL科目、2回生以上配当科目で、学生が各専攻学問を踏まえてプロジェクトに参加するPBL科目がある。また、各学部のカリキュラムを通じて、年次が進むにしたがって学びが深化するようになっている。

キャリア支援の基本的な考え方は学生生活での学びを成長にどうつなげていくかということである。学んだことをもとに、人生観・世界観・職業観などをどう醸成されるかが進路選択につながっていく。学生生活の充実度と進路への納得度は相関関係があり、学生生活が充実することによって進路実現につながる。

キャリアセンターには在籍者数の9割以上が登録している。学生の現状を把握するために、年4回の電話調査、ゼミ・研究室などを通して調査している。必要に応じてマッチング支援を行っている。

キャリアセンターの業務として内定・決定状況の把握、就職活動相談などのプレースメントテストサービス、国家公務員総合職プログラムや留学生とともに企業が提供する課題に取り組む教育プログラムの提供、難関試験対策、資格講座を学内で開講する総合講座などがある。

様々な取り組みの結果、2018年度の就職決定率は全体で97.1%、附属校出身者は98.5%とな

った。難関試験合格者も国家公務員（総合職）、公認会計士（論文式試験合格者）、司法試験で西日本私大1位となった。

今春卒業生の就職環境は中小企業が新卒の求人総数を減少させた結果求人倍率は前年の1.88から1.83に減少し、5000人以上の大卒求人倍率は0.42倍で低水準を推移している。

学生を取り巻く就職環境は変化している。新卒一括採用から通年採用を含む採用の複雑化、卒業時の学びの質が問われ、デジタルテクノロジーを活用した採用に変化してきている。そのため、これからの進路・就職支援では低回生からの自律的なキャリア形成、「マス」から「個」への支援、EdTech活用、AI・数理統計・データサイエンス人材育成、BtoB企業等へ学生の視野を広げる取り組み、国際機関を志望するキャリアカウンセリング、卒業生支援、留学生支援、人文社系院生卒業生や留学生支援などを考えていかなければならない。

これからの進路・就職支援

- 自律的なキャリア形成力の養成 ⇒ 低回生からのキャリア支援
- 「マス」から「個」へ支援、EdTech活用
⇒ キャリアセンターの活用促進
- AI、数理統計、データサイエンス人材育成（統計学必須）
- 「B to B」企業等、学生の視野を広げる取り組み
- 国際機関を志望する学生へのキャリアカウンセリング
- 卒業生支援、セカンドキャリア支援
- 留学生支援（ビジネス日本語、インターンシップ）
- 人文社系院生支援、など

2 卒業生プレゼン

後半はゲストスピーカーの3名から報告していただいた。

一人目は、立命館高校出身のAさん。

現在、経営学部3回生で、昨年公認会計士試験に合格。在学中ですが、今年4月からPwC監査法人に「学生パート」として就職予定です。現在3回生で来年は監査法人に繁忙期に勤め、その後、東南アジアの交換留学生になり、卒業する計画です。

高校では高校野球に専念し、キャプテンをしていました。それ以外に体育祭実行委員・文化祭クラス劇企画委員・JSSFでの海外留学生のバディもしていました。

学部選択をするとき、学歴フィルターにひっかかりたくない、大学は社会人になるための重要なステップの時期であるという点を重視しました。そして、京大・東大に進学するために浪人するならば、システムが整った経営学部に進学し公認会計士を取り、交換留学生になろうと決めました。

受験勉強を経験しなかったもので、自分の中で勝負した経験は高校野球で負けたという思い出しかなかった。そこで一度勝負したいと思い、公認会計士を目標にしました。合格できたのは、合格を目指す優秀なチームを作り、自分自身でそのチームを引っ張っていったこと、高校のクラブでいくつも苦労を経験した結果、何事にも前向きに考えられるようになったことです。そして合格が最終目標でなく、常にその先に新たな目標が待っていて、合格しないといけないと心に決めていたからだと思います。

附属校の先生方には、受験がないからこそ、日常的に将来の目標設定を促してほしいし、個別に具体的な提案をお願いしたいと思います。

二人目は、立命館宇治高校出身のBさん。

現在、国際関係学部4回生で、株式会社ジーユー（GU）に就職予定です。国際関係学部を選ん

高校への要望

- ✓就活直前になって自分の進路に迷う学生が多い
- ✓そもそも後回しにしてしまう人もいる



受験がないからこそ将来の現実的な目標設定を促してもらえたらよかったですと考えています。

Ex. OB・OGの方に来ていただき生徒の興味を促す。

先生個人の職業観のシェア（なぜ先生になったのかなど）

だきっかけは、高校時代の研修旅行や WYM&ASEP への参加、国際関係学部のセミナーへ参加して、今世界で起きていることをもっと身近に学びたい、長期留学したい、将来的にグローバルに働きたいという理由からです。次の3つの軸を中心に就職活動しました。人の生活や人の生き方に影響を与えることができる、グローバルに活躍できる、若くから活躍できる、挑戦できる環境があることでした。

高校時代を振り返ってよかったことは、プレゼンテーションや発表などインプット、アウトプットの機会が多くあったこと、多様な課外活動のプログラムがあった

ことです。そして、私は数学が得意だったので理系と言われていましたが、先生方が真摯に相談に乗ってくれて、国際関係学部への進学を決定できて感謝しています。

あと、在校生には、高校時の環境を当たり前と思わずに、勉強できていることに感謝する気持ちを忘れないように生徒に伝えてもらいたいです。

三人目は立命館慶祥高校出身のCさん。

理工学研究科2回生で、4月からは富士ゼロックスに就職予定です。

物理ができたので、立命館の理工学部に進学しましたが、学部の時は読書とアルバイト中心の生活でしたが、卒業時に自分の中で突き抜けたものが欲しかったので大学院に進学しました。

大学院に入ってから、主体的に行動したいと思い、PBLの活動としてインドへの短期留学し、自分が持っている理系の知識を使ってインドの電力問題を解消する方法を日本企業に発表しました。しかし、コストなど不十分な点が多く、企業の方から多くの指摘を受けて良い経験をしました。

今振り返ると、進路選択で大学進学時はネガティブな自分がありましたが、就職活動時は自分のできる・やりたい事で勝負したい等ポジティブな自分がありました。海外研修やSSH研究など、自由に学び・挑戦できる風土のある慶祥で過ごしたからこそ、「知的好奇心」という一面が形成され、大事な時期に自分を成長させてくれたと感じています。

立命館大学も、附属校も、カリキュラムが充実した素晴らしい学校です。ただ、大学を有効に活用している人は決して多くありません。高校までは先生が道案内をしてくれたが、大学では主体的に行動しなければ道は見つかりません。

高校時代の物理の先生が、私を物理がそこそこでき、且つ前向きに勉強できる生徒にしてくれました。先生方には、これから見守り、教えるであろう生徒さんの「出来る」や「好き」をたくさん見つけてあげてほしいと思います。

3 ディスカッション

最後には質疑応答を行った。

◎内部進学者への助言は

立命館コースで学んでいく中で自分は何ができてで、できないかを見つめて欲しい。先生には、将来の選択肢のアドバイスをしたい。

高校の良かった点と要望

良かった点

- ◆インプット、アウトプット学習が整っていたこと
- ◆多様な課外活動のプログラムがあったこと
- ◆生徒に真摯に向き合ってくれる先生たちがいてくれたこと

要望

- ◆高校時の環境を当たり前と思わずに、勉強できていることに感謝する気持ちを忘れないように生徒に伝授してもらいたい

最後に...



高校時代の物理の先生が、物理がそこそこでき、且つ前向きに勉強できる生徒にしてくれました。

これから見守り、教えるであろう生徒さんの「出来る」や「好き」をたくさん見つけてあげてほしいと思います。



◎自分の進路を考えるきっかけについて

高校の時はキャリア教育の機会もあったが、目の前のこと（特にクラブ）で頭がいっぱいで、あまり、将来のことを考えていなかった。クラブを引退して公認会計士を大学2回生で資格取得したいと思ったが、時期が遅かった。先生方には、毎日の指導の中で、生徒に問いかけて欲しい。例えば、グローバルな仕事がしたい、営業をしたいなら、どこの企業でもできる。もっと具体的に問いかけて欲しい。

◎大学で専門教育を受けることは就職以外で学ぶどんな意義があるか。これからの夢を教えて欲しい。（高校生は就職だけを考えて学部選びをするが、大学の学びで就職だけでなく、メタ認知を身につけさせたいと考えているので）

・留学をして、日本の大学と違い授業数が少なく、自分が学びたい勉強にフォーカスできて、学ぶ楽しさがわかった。企業選択の際、日本の文化を伝えたいと考えた。就職後は、海外店舗の立ち上げを行い、海外の人に新しい服の価値観を伝えたい。

・強いて言うならコミュニケーション能力と思う。将来は社会貢献ビジネス、NPO 法人を立ちあげたい。

・教科書にある公式がどのように成り立っているかを学んできた。理系だからこそ物事を考えていくときに、何で成り立っているか、作業の過程を考えることができるようになった。就職後は様々な職場の業務の効率化を図り、働いている人が本来やるべきところに注力（教員なら子供に向き合う時間の確保）できるよう貢献していきたい。

・本日のスピーカーの方々は、大学でそれぞれの学問領域におけるものの見方を身につけ、物事を専門の論理的な文法に従って考える手法を身につけられていた。3人の将来で共通していることはほかの人の幸せを作ることだと思う。私は、他者の関わるのが大事であると実感し、3人が自分の将来を作ることができたのでは思った。

◎内部進学について感じたことは

受験勉強をしていないことに引け目を感じたときもあったが、附属校だから経験できたことがたくさんあり満足している。大学で何をしていくか、何をしたいかが大切と感じている。

◎次長からまとめ

本日の学生のうち2人は高校の時は数学が得意だったが、理系でない学部に進学したという話をしてくれた。ビジネスの世界では、かつてMBAの取得が話題になったが、今、美術系の分野が注目されている。心の安らぎや人が共感できる、ユーザーに寄り添える視点が重視され、文理の融合が注目されている。

学生数が多い大学のため内部進学者の割合は少ないが、一般的に回生が進むに従って内部進学者の成績が上昇する。俗に「伸びしろ」が大きいと言われている。また、大学で好きなことに出会えるかで「伸びしろ」が大きくなる。

難関大学合格者に「立命館と言えば」という質問をすると、附属校卒業生は全員「高校」と回答する。このことから、附属校卒業生のアイデンティティを形成しているのは「附属校」であると感じている。

最後に、東次長からキャリアセンター作成の冊子『学生生活を充実させる「59」のストーリー』をご紹介いただき、受講者全員に冊子を頂戴した。

参考資料：キャリアセンターの支援について
(自己省察ツール)

- +Rキャリア
- 学生生活を充実させるために先輩の成功体験に習うツールを作成。
- You Tubeで先輩から成長に繋がった経験談と新入生へのメッセージを閲覧することが可能